

# 令和8年度 小樽市立桜小学校 学力向上改善プラン

## 1 児童の実態

令和7年度の学力向上改善プランの定着目標の達成状況は、66%であった。(令和7年度の全国学力・学習状況調査においては、国語、算数ともに、全国・全道の平均正答率をやや下回った。校内児童アンケートの結果では、「平日の動画・ゲーム時間」が3時間以上の児童が全校で34%と全体の約3分の1以上となっているため、家庭学習時間の確保に課題がみられる。家庭学習時間のめやすを達成できている児童は、低学年から高学年に学年が上がるにつれて少なくなっている。家庭学習の習慣化を図るとともに、児童の生活習慣を見直していくことが大切である。標準学力調査や確認テスト等の結果から、各学年での指導事項の確実な定着のための時間を大切にして授業改善を図り、学力向上を目指す。

## 2 学年ごとの定着目標 (数値目標)

### <国語科>

学年	定着目標
1年	・配当漢字(ひらがな)の定着割合80%以上とする
2年	・配当漢字の定着と日本文章で使える割合を80%以上とする
3年	・配当漢字の定着と日本文章で使える割合を80%以上とする
4年	・配当漢字の定着と日本文章で使える割合を80%以上とする
5年	・配当漢字の定着と日本文章で使える割合を80%以上とする
6年	・配当漢字の定着と日本文章で使える割合を80%以上とする

### <算数科>

学年	定着目標
1年	・たし算とひき算の定着割合を85%以上とする
2年	・既習基礎計算の定着割合を85%以上とする
3年	・既習基礎計算の定着割合を85%以上とする
4年	・既習基礎計算の定着割合を85%以上とする
5年	・既習基礎計算の定着割合を85%以上とする
6年	・既習基礎計算の定着割合を85%以上とする

### <学習・生活習慣(家庭学習等)>

学年	定着目標
1年	・学年×10分+10分の家庭学習を平日ほとんど毎日している(80%以上)
2年	・学年×10分+10分の家庭学習を平日ほとんど毎日している(80%以上)
3年	・学年×10分+10分の家庭学習を平日ほとんど毎日している(80%以上)
4年	・学年×10分+10分の家庭学習を平日ほとんど毎日している(65%以上)
5年	・学年×10分+10分の家庭学習を平日ほとんど毎日している(65%以上)
6年	・学年×10分+10分の家庭学習を平日ほとんど毎日している(65%以上)

## 3 目標を達成するための具体的な方策

### (1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①ICTを活用した学びの選択肢の拡大
- ②長期休業中の学習会や桜問題等、個別最適な学習機会の充実
- ③各種調査、単元テスト等の結果分析
- ④チームティーチングで算数科の基礎基本の定着を図る

### (2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①「小樽授業づくりの5つのステップ」による授業改善
- ②単元や一単位時間内での自己決定の場の意図的な設定
- ③ICTを活用した指導の個別化と協働的な学びの推進
- ④授業中の定着のための時間を充実させる

### (3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①家庭学習の習慣化を図るための啓発と家庭との連携
- ②家庭学習頑張り週間の設定と活用問題課題への働きかけ
- ③「スマート7」等の保護者への啓発活動

## 4 実施計画

年月日	計画内容
R8年	・これまでの(前年度等)全国学力・学習状況調査の調査問題等の実施
4月	・チャレンジテスト(前年度問題)の実施 ・校内学力向上検討委員会 ・朝学習、家庭学習指導 ・週末課題の取組 ○R8全国学力・学習状況調査の実施 ○全国学力・学習状況調査 自己採点 ○標準学力調査実施(第3学年・第5学年)
5月	・校内学力向上検討委員会 ○標準学力調査結果分析
6月	・これまでの(前年度等)全国学力・学習状況調査の調査問題等の実施
7月	・桜問題、学習会の実施 ・家庭学習頑張り週間の実施 ・チャレンジテスト(1学期末問題)の実施 ・夏休み学習会の実施
8月	・週末活用課題の実施開始(5年生) ○R8全国学力・学習状況調査結果分析
9月	・全国学力・学習状況調査、標準学力調査の結果分析から授業改善に向けての校内研修 ・桜ノート展
10月	○保護者への調査結果の説明 ○学力向上改善プランの評価・改善
11月	・桜問題、学習会の実施
12月	・これまでの(前年度等)全国学力・学習状況調査の調査問題等の実施 ・エビデンスに基づく学力向上の方策についての校内研修 ・チャレンジテスト(2学期末問題)の実施 ・冬休み学習会の実施
R9年	・桜ノート展
1月	・校内学力向上検討委員会 ・家庭学習強化週間の実施
2月	・学力向上検討委員会「確認テスト」の実施 ・これまでの(前年度等)全国学力・学習状況調査の調査問題等の実施
3月	○新学力向上改善プランの作成

## 5 評価方法

### (1) 基礎学力の確実な定着を図る取組

- ①担任への聞き取りによる学びの保障の確認
- ②学習会の参加率と担任への聞き取り
- ③チャレンジテストや単元テスト、確認テスト等の結果分析
- ④児童アンケートの結果分析及び教職員アンケートの結果分析

### (2) 確かな学力をはぐくむ授業改善の取組

- ①②チェックリスト(学力向上検討委員会)を活用
- ③児童アンケートの結果分析及び研究協議による検証
- ④担任への聞き取りによる定着の時間の確認

### (3) 家庭と連携した学習習慣・生活習慣をはぐくむ取組

- ①担任への聞き取りによる家庭学習提出率の確認
- ②児童アンケートの結果分析及び担任への聞き取り
- ③保護者アンケートの結果分析